様式３

会　　議　　記　　録

　次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

|  |  |
| --- | --- |
| 審議会等名称 | 令和３年度　第１回近江八幡市総合教育会議 |
| 開催日時 | 令和３年４月３０日（金）　13時30分 ～ 15時00分 |
| 開催場所 | 近江八幡市役所３階　市長応接室 |
| 出席者※会長等◎副会長等○ | 出席者（敬称略）市　長　小西 理（◎）教育長　大喜多 悦子教育長職務代理者　久家 昌代教育委員会委員　八耳 哲也、西田 佳成　　　※欠席者　教育委員　安倍映子◇傍聴者　０名 |
| 次回開催予定日 | 　未定 |
| 問い合わせ先 | 所属名、担当者名　総合政策部企画課　今井電話番号　　0748-36-5527ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　　010202@city.omihachiman.lg.jp |
| 会議記録 | 発言記録 ・ 要約 | 要約した理由 | 内容を整理して、わかりやすく記録として残すため |
| 内容 | 別紙のとおり |

担当課⇒総務課

＜会議記録（要約）＞

|  |  |
| --- | --- |
| 事　務　局 | 1. 開会
 |
| 市　長 | 1. あいさつ
* 短い時間だが、忌憚のない意見をいただきたい。
 |
| 事　務　局 | 1. 議題
2. 今年度総合教育会議の進め方について
* 事務局担当者より、今年度の総合教育会議の進め方について、資料１に基づき説明。
* 会議は全５回開催。２時間程度の時間を見ておく。
 |
| 市　長 | * 事務局案について意見がある方はご発言をお願いしたい。

　→意見無し |
| 事　務　局 | （2）近江八幡市教育大綱の改定について* 現行の教育大綱に即した事業の実施状況について、資料２に基づき説明。
 |
| 市　長 | * 基礎的な事業も特色のある事業も並列に並べられているので取り組みの状況が分かりにくい。取りまとめ方の工夫が必要だと思う。
 |
| 事　務　局 | * 教育大綱改定にかかる考え方について、資料３に基づき説明

大まかには超スマート社会の到来という大きな流れへの対応という点と、SDGｓの視点という二点を加える必要があると考えている。 |
| 教　育　長 | * 今の社会情勢を踏まえてという視点は必要だとは思うが、それは背景程度に考えて、どういう子どもを育てたいかをメインに考えていきたい。どういう子どもかと言うと、志や夢を持って生き抜いていける子ども。そのためにどういう力が必要かというと、自己肯定感・自尊感情・人と協働する力などが大事。
* すべての人が学び続け、学んだことを活かせる社会を作ることが大事。生涯学習を取り込んだ大綱となるような文にしたい。
* 今までの理念や柱は変える必要はない、資料３で示されたようなことを元々の大綱の理念に収斂していくようにまとめられると良いのではないか。時代とともに変わる部分もあるが、だからこそリアルな人と人とのつながりが大事になるので、その部分を入れてほしい。
* 子どもたちには自分の頭で考え、表現し、行動していく力、自分で自分の価値観を作り上げていく力が必要。その力が大きな意味での「学力」だと考えている。思いやりや自尊感情・意欲・協調性といった社会性は大切。それが自然とSDGｓの理念にもつながってくる。そのためにふるさとに愛着と誇りを持つ子どもを育てていきたい。
* すべての人がより良く生きていくために学び続け、それを仕事や生活に活かし、人権が尊重され、子どもを育てる親にとって住みやすい市になればいいと思う。子育て世代に対する家庭教育や、情報提供を大切にしたい。子供中心ではあるが、すべての世代にとっての教育という視点を盛り込んだ大綱になると良いと思っている。
 |
| 委　員 | * 超スマート社会というものへの対応は必要だが、AIにはない人間性や感情を尊重し、スマート社会への対応と両立させることが必要だと考えており、そういった文言があると良い。人間性などの力をふるさと教育等で身に着け、それをベースにしてスマート社会にも対応できる子どもを育てることが重要。
* 今の時代「人と自分は違って当たり前」という考えは当然のものになっている。互いの違いを認め合えるというような文言があると良い。
 |
| 委　員 | * 資料３の書き出しに「本市を取り巻く…」といった書き方があるが、ここで語られていることは本市に限らず社会全体の話。現状を本市らしさの中でとらえる必要がある。例えば、当市には人と人の温かい関わり合いが基盤としてあったが、それがこれからの社会の中でどう変わっていくかが心配。
* 市として取り組んでいるふるさと学習はSDGｓの１７の目標と深くかかわっている。それは近江八幡の特色が表れている部分だと思う。こういったものを踏まえた本市としての現状を考え方に取り入れてほしい。
* 大綱には市長の思いや考え方を明確に盛り込んでほしい。
 |
| 委　員 | * 超スマート社会等の文言は必要だと思うが、文言を「入れて満足」になるのではないかという懸念がある。実践につながるかが大事。
* 得意を伸ばす教育とあるが、苦手をほっといてもいいわけではない。課題解決のためには人とのつながりこそ大事。
 |
| 市　長 | * 最初のフレーズは枕詞のようなものだと考えている。
* キーワードとしては、「志・夢」「生涯教育・全ての人が学び続ける」「自分の価値観を作る」「感情や人間性の尊重」「互いの違いを認め合う」「あたたかい関わり合い」「ふるさとの誇り」「（人と人がかかわりあう中での）様々な経験」これらを活かしながら修文していけば良い。
* 今の文章は「文部科学省用語」で書かれているように感じるため、書きぶりを変えていく必要はあると思う。
 |
| 教　育　長 | * 本市として一番の課題になるものが超スマート社会への対応であるかのように感じられる書きぶりは問題だと思う。
 |
| 事　務　局 | * いただいたご意見の中から出たキーワードは元々の案にも要素としては入っているので、書きぶりを改めていきたい。
* 「近江八幡市らしさ」がどう変わってきたかという要素についても教育委員会と議論を重ね、書き込んでいきたい。
* 社会自体が「非連続」と言えるほどに変わっているという状況は背景としてあるので、その文章は残したい。
 |
| 市　長 | * 社会情勢に関するとらえ方の問題だと思う。AIの問題点は「不合理な判断」をしない。１０人を生かすために１人を犠牲にするという判断をためらいなく行う。そこで今までの社会とのギャップが生まれる。
* ネット検索のワードなどもビッグデータとして管理されており、情報という点に関して時代が大きく変化していることを感じている。
 |
| 事　務　局 | * 現大綱の中でも、大綱の改定は、一応4年間の期間の定めはあるものの、社会情勢などの変化を踏まえて決定していくことになっている。なので、社会情勢の変化があったことは文章として残したい。
 |
| 教　育　長 | * 社会情勢の変化について触れる必要があることはわかるが、書きぶりの問題。
* 「非連続」などのようにあえて解説の必要な言葉を入れる必要はない。
 |
| 委　員 | * 大綱は市民一人一人のためのものであり、だれもが読んで理解できるものでないといけない。また、近江八幡市の人々の思いに寄り添う内容でないと受け入れられない。
 |
| 市　長 | * そもそも市に教育委員会が置かれている意義は地域の「コミュニティ」としての教育を考えるため。その意義を考えると、当市ならではという視点はしっかり持たないといけない。
 |
| 教　育　長 | * 社会のリーダーとなるような人材も必要だとは思うが、それ以上に近江八幡という地域社会を支える人材も必要。地域を知っている人材を作るという視点が必要。
 |
| 市　長 | * まずは当市のこれまでの取り組みや伝統に触れ、一方社会はこのように変わってきたという書き方にしてはどうか。
 |
| 教　育　長 | * 書き方としては市長のおっしゃる通りでいいと思う。
* 文科省の方針はここ数年で大きくは変わっていない。
 |
| 事　務　局 | * キーワードとなる意見はいただいたので、教育委員会とも話し合いながら、作り直していきたい。
* 事務局から新たに案を作成し、次回会議までに委員・市長らに個別に説明を行う。
 |
| 事　務　局 | * 改定にかかる視点について、資料４に基づき説明。
* Society5.0への対応という視点、SDGｓに関する視点、コロナ禍をはじめとした大きな社会情勢の変化への対応という視点が必要と事務局は考える。
 |
| 市　長 | * ３つの視点・５つの柱について、ご意見をいただきたい。
 |
| 教　育　長 | * 事務局説明にあった要素を文言として入れていくということか。
 |
| 事　務　局 | * 前回の会議の中で、根幹となる部分は大きくは変えないという話にはなっているので、事務局の案をベースにして細部の文言などをどう変えていくか議論をいただきたい。
 |
| 教　育　長 | * ３つの柱の部分はこのままでいいと思う。
* 視点②は社会性に関わる部分だと思うので「人権」・「道徳心」・「社会性」・「コミュニケーション能力」・「自尊感情」・「豊かな心」といった言葉を入れたい。
* 視点④について、「新たな文化を創ります」→「新たな人と文化を創ります」と変更したい。
* 視点⑤について、この文章自体が前半と後半で分離した意味になっている。視点⑤は健康増進のみに焦点をあて、生涯学習については視点③に盛り込んではどうか。
 |
| 市　長 | * １６の目標について皆様のご意見を伺いたい。
 |
| 教　育　長 | * ①などに「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」を文言として入れたい。
* ⑦や⑯に不登校への支援・対策に関する文言を入れたい。近江八幡市としての課題だと思っている。書きぶりが難しいが「支援」という表現を使って書ければ。
* ⑨に文化・遺産の「継承」などと書かれているが、ただ継承するだけではなく、魅力をより発信していくなど、手を加えることでよりよくしていくという発想が必要。
* ⑭は図書館だけの仕事のように思えてしまう。書き方を改めて、市民全体として図書館の事業を通して学びの環境づくりをしていくというような書きぶりにできないか。
* それぞれの目標の掲載順は特に意味がないと聞いたが、もう少し順番も考えた方が良いのではないか。関連する目標がバラバラに書かれているので５つの視点と照応させるなどして並び替えてはどうか。「子ども」「社会」「施設」などでも分類できるのでは。
 |
| 委　員 | * ICT活用という部分を⑮に盛り込みたい。
 |
| 委　員 | * ⑩に「ふるさと」という文言を盛り込みたい。例えば「郷土愛が醸成できる」という文言を「ふるさとを愛し続けられる」という風に。
* ⑮にICTに関することを入れるなら、設備を整えて終わりにならないようにICTの「積極活用」という文言を入れたい。
 |
| 委　員 | * 「早寝・早起き・あさしどう」は文言としてどこかに入れたい。
* ⑥について「命」の重さを考えさせられるような内容にしたい。
* ⑧の冒頭について、親だけでなく「親・市民（人）」等のように市民一人一人が学べる環境につながる文言にしたい。
* ⑪と⑫で「誰でも」と「誰もが」と、同じ意味で違う表現があるので統一した方が良い。
* ⑭について、「成長を支える」という表現があるが、「勝手に成長していく」というニュアンスが感じられるので「（学校・家庭・地域で）育てる」という思いが伝わる表現にしたい。
* ⑮について、学校へのエレベーターの設置など、教育の環境だけでなく、生活の環境をも充実させるような取り組みが実際に行われている。そういった文言も入ると良い。
* ⑯について、子どもたちの生き生きとした顔を見ていると特別支援教育は近江八幡市の教育の特色といえる部分だと思う。⑯の文言の中に、「特別支援教育」や「不登校」といった具体的な文言も加えられないか。
* 来年度から給食事業が公会計化することもあり、食育という部分をどこかに盛り込みたい。新規に目標⑰としてもいい。
 |
| 事　務　局 | * 皆様から頂いた意見を基に案を作り、皆様にお示ししようと思う。
 |
| 市　長 | * 今回皆様から様々な意見を頂いたので、自分の中でもかみ砕いておきたい。
* 個人的な意見を言うなら、これからは柔軟な方が勝つ時代だと思う。技術的に突き詰めて考えるよりも、色々なことを経験し、心を豊かにしておくことが大切。
* 教育長のお話の中に「志」という言葉もあったが、「生活があって人生がない」ということが今後問題になると思う。その中で、教育の現場で何ができるのかを考えるという意味ではとても有意義な議論になった。
 |
| 事　務　局 | * 本日の回議の中で言い尽くせなかったことがありましたら、資料５に記入の上事務局までご提出いただきたい。
* 次回の開催については、改めてご案内させていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。
 |
| 市　長 | * 本日の議題は以上となる。活発な議論をありがとうございました。次回も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
 |
|  | 終了　15時00分 |